

三船校区まちづくりプラン

(校区振興計画)



平成29年3月
三船校区コミュニティ協議会

《 目 次 》

はじめに

I 三船校区の概要

1. 三船校区の位置図
2. 三船校区の特色ある風景・史跡・伝統芸能等
3. 三船校区コミュニティ協議会の組織体制

II 三船校区の現状と課題

1. 三船校区の現状
2. 三船校区の課題

III 三船校区がめざす将来像

IV 主な取り組みと役割分担

V 計画の推進に向けて

VI 資料編

1. 計画策定の経過
2. 三船校区まちづくりプラン策定委員会委員

はじめに

私たちの三船校区は始良市の中央部に位置し、田園風景の広がる自然環境の豊かな農村地帯です。人口動静は比較的に緩やかで、市街地に近い南部地区は移住・定住化の動きが見られますが、北部・西部地区では少子高齢化の流れの中で集落の疲弊化が進んでいます。

校区の特色として、天然温泉や船津運動公園および景観地である住吉池には、休息や観光・スポーツイベント等で、校区外や始良市外からも多くの来訪者が立ち寄られます。

また、中津野工業団地や船津地区には優良企業数社が進出し、最近も市給食センターや介護福祉施設が建設され、校区内外からの就労者数も増えています。

また、地の利にも恵まれて市中心地域からの交通アクセスも良く、校区を縦断する県道・市道の整備も進みつつある関係で、交流人口の増加に繋がっています。

これからの校区振興を考えますと、発展する市中心部に連携した田園近郊地域として、自然や田園風景にマッチした住環境の整備と観光資源の再開発、産業としての稲作や都市近郊農業および新規企業誘致等の取組みを加速し、併せてコミュニティ活動や自治会活動などの活性化を図り、ハード・ソフトの両面でまちづくりを考える必要があります。

従って、発展性につながる好条件や地域資源を活かし、活力ある地域づくりを推進すべきと考えていますが、そのためには、次世代を担う子育て世帯の増加を図り、働く場所も考慮しなければなりません。しかし、平野部の大部分が農業振興地域に指定され、新規の住宅建設や企業誘致等に適う用地確保が難しく、現状維持の政策では将来的に活力を失う可能性が危惧される地域でもあります。

今回、三船校区コミュニティ協議会が発足2年目を終えるに当たり、皆さまからの声や実施した住民アンケート結果に基づき、今後の三船校区の将来像を見据えた「まちづくりプラン」を作成しましたので、これらを指標に行政と地域が協働した「魅力あふれる、元気な住み良い三船校区」を目指し、皆さまと共に地域づくりに努力してまいります。

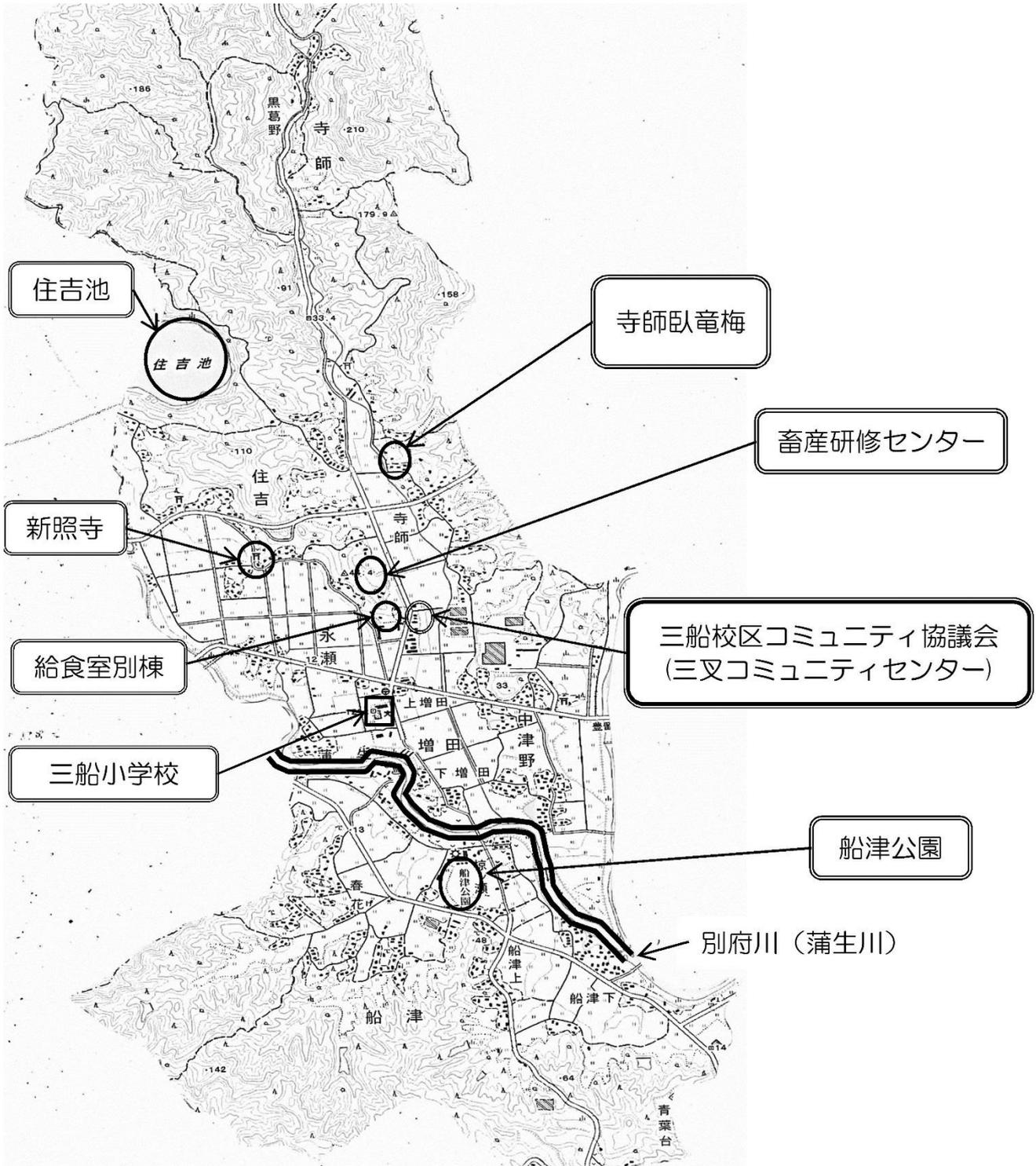
平成29年3月

三船校区コミュニティ協議会

I 【三船校区の概要】

1. 三船校区の位置図

私たちの三船校区は始良市の中央部に位置し、別府川を挟んで三叉地区と船津地区に大別されます。主要県道3路線が縦横に通り、始良市中心街にも近く蒲生地区や加治木地区、及び薩摩川内市や空港・霧島市への交通アクセスも良いため、今後の発展が望まれる地域です。



昭和の町村合併（昭和30年）により、旧帖佐町の三叉地区と旧重富村の船津地区が学区として統合され、三船小学校の開校（昭和38年）に伴って三船校区と呼ばれています。

校区は始良市でも有数な耕地が広がる農村地域で、三船小学校を中核とした9自治会で地域活動を行ってきました。平成27年度から三船校区コミュニティ協議会が発足し、地域振興の先導的立場で地域と行政の連携を深めています。

2. 三船校区の特色ある風景・史跡・伝統芸能等

三船校区は中世以前からの農村地域であり、農業に係わる文化や伝統芸能、および水田開発などの遺跡・遺構が残っています。

《太鼓踊り》



島津義弘公の朝鮮出兵時の凱旋を祝う太鼓踊りは、県内各地にそれぞれの形態で傳承されていますが、三船校区の春花地区にも同集落の農民が奉納した踊りが残されています。

始良市には加治木地区と蒲生地区に保存会があり、春花の太鼓踊りも蒲生保存会の一団として、毎年8月に八幡神社への奉納踊りと、街中を踊り歩きます。

《住吉池》



住吉池は太古の火山活動によって形成された湖で、稲作での新田開発に併せて農業用水の溜池として整備されてきました。池の出水口付近には祠（ホコラ）や水神碑・記碑があり、毎年、住吉集落で池まつりが行われています。

また、住吉地区には大蛇退治の昔話しが残され始良市の民話として語りつがれています。

《臥竜梅》



鹿児島県の三大天神に数えられ、飛び梅の名所でしたが、近年は梅が枯れるなどで、立ち寄り人影も少なくなりました。

園内には菅原道真の天神信仰を伝える「綱天神」の社殿があり、地域や氏子で管理されています。

今後は、住吉池に連なる散策道の整備と公園化などの取り組みが望まれています。

《水口ゆきえ墓と遺構》



江戸時代、中津野集落に生まれた水口ゆきえ水田開発に要する水路建設を嘆願し、地域民を動かして山田川上流より約4kmの水路新設に携わりました。この事業により多くの水田が開発され現在もこの恩恵を受けています。

ゆきえの墓は中津野公民館に残され、慰霊祭が地域の人たちで行われています。

《田の神講とモグラ打ち》



田の神講は南九州各地に残る伝統行事で、校区の各自治会で豊作祈願の行事として行われていましたが、昭和40年頃から途絶え始め現在は中津野自治会が伝承しています。

また、モグラ打ちも旧正月の頃に、子供達によって各地で行われていましたが、田の神講と同様に途絶え、中津野自治会が伝承しています。※田の神は各公民館などに安置されています。

《鬼火焚き》



鬼火焚きは、県内各地で見られる厄除けの日祭りで、実施する自治会も増えてきました。青竹で組んだヤグラに火を放ち、竹の弾ける音で厄を払い、火で焼いた餅を食べると1年を通して健康が約束されると言われています。

《住吉の新照寺》



住吉自治会にある新照寺は、全国でも珍しい石造りの本堂と、囲りの石垣が国の有形文化財に指定されています。

本堂の天井絵には見事な家紋が描かれ、探索に訪れても見所のあるお寺です。

3. 三船校区コミュニティ協議会の組織体制

① 設立年月日 平成27年4月16日

② 構成団体

校区9自治会、校区民生員、土地改良区および農業団体、老人クラブ代表、消防団、地域ショップほか

③ 運営上の現状

コミュニティ協議会の前身である三船校区社会福祉協議会・自治会長連絡協議会体育振興会の活動を継承し、従来からの地域づくりに不足していた校区主体の連携体制構築や、地域と行政のパイプ役としての統括機関の備えを充実し、更には地域課題の解消に向けた取組み等を模索し、地域活性化の先導を目指しています。

④ 平成28年度役員名

会 長：岸園 浩一

副 会 長：上野 廣夫

事 務 局 長：仮屋 幹雄（会計兼務）

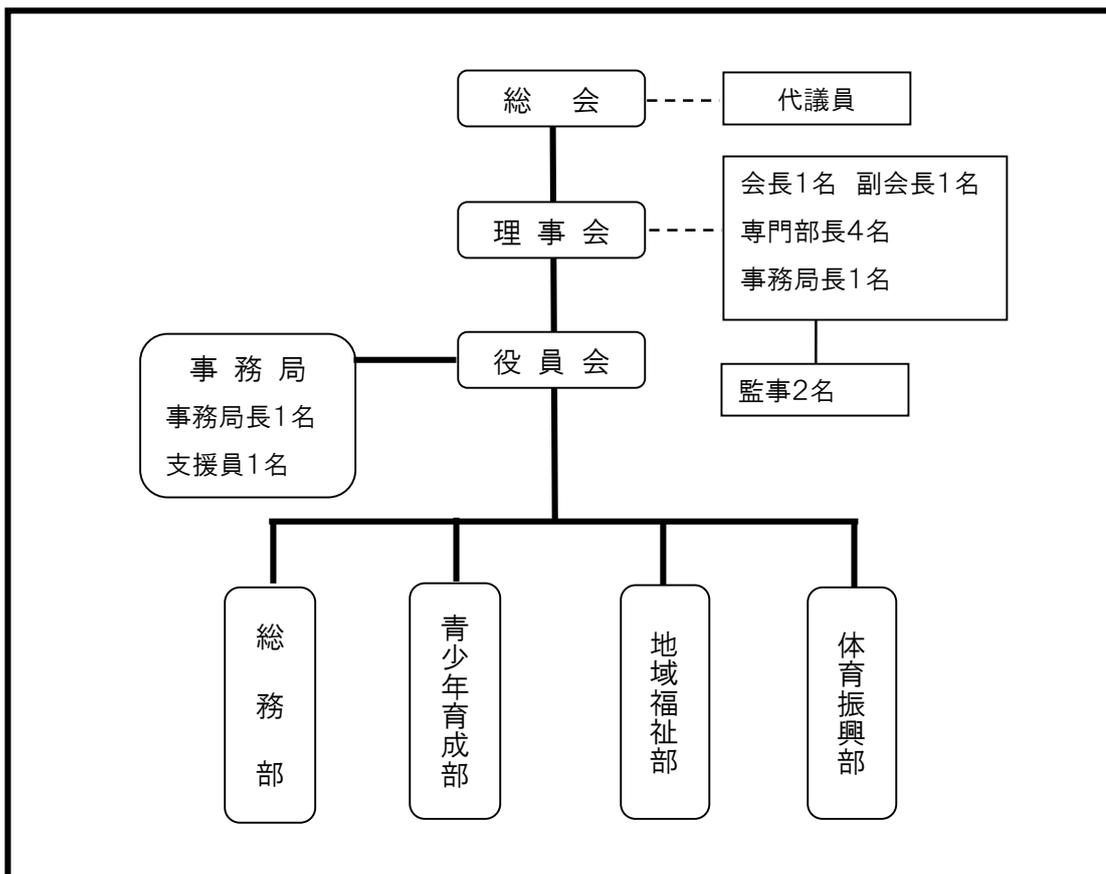
総 務 部 長：福山 昭彦

青少年育成部長：米重 公德

地域福祉部長：富田 雅昭

体育振興部長：柳迫 勝美

⑤ 組 織 図



Ⅱ【三船校区の現状と課題】

1. 三船校区の現状

[平成28年5月1日現在]

- ① 人口 男子 1,171人 女子 1,361人 合計 2,532人
- ② 世帯数 1,207世帯
- ③ 高齢化率 35.3% (65歳以上)
- ④ 関係小・中学校
 - ・三船小学校 男子 51人 女子 49人 合計 100人
 - ・山田中学校 男子 27人 女子 8人 合計 35人
 - ・帖佐中学校 男子 403人 女子 358人 合計 761人

⑤ 消防団

- ・始良方面隊帖佐分団 船津部 13人 三叉部 19人

⑥ 校区内の主要施設

- ・三叉コミュニティセンター、さんさ乃湯
- ・船津運動公園
- ・JA西部営農センター、ライスセンター、育苗センター
- ・給食センター別棟
- ・畜産振興センター

⑦ 校区の特徴

始良市の中央部に位置し、別府川を挟み長閑な田園風景が広がります。主要県道が縦横断し、薩摩川内市や空港および始良市街地と加治木・蒲生地区を結ぶ交通アクセスに恵まれるので、地の利を活かした活性化が望まれます。

⑧ 校区の産業等（農地等の現状も含む）

農業が盛んで始良市でも有数の稲作地帯ですが、高齢化と担い手不足等から就農者数は減少傾向にあります。近年では市街地のスーパーや地域ショップ向けの野菜づくりも盛んで、有機あいらのブランド品も生産しています。

また、高度成長期のころから企業誘致が始まり、食品配送センター、金属加工業、縫製業、電子部品製造、化粧品製造、中規模ショップ、産廃物収集業等の企業進出で、近隣の主婦や若手の就業先になっています。

⑨ その他

三船校区には運動公園や天然温泉があり、校区外からスポーツや休息で訪れる市民も多い地域です。しかし、旧始良町の名所であった寺師臥竜梅や住吉池の周辺は、管理や整備状況が悪く訪れる市民も少なくなっています。

人口増加が進む始良市街地に近く、憩いの場として、あいらビュー号の観光ルートとして、スポーツ・観光・行楽他での再開発が望まれます。

2. 三船校区の課題《専門部毎》

① 総務部会

自治会員の高齢化進展や未加入世帯の増加により、自治会活動に支障が出始めている。特に、山間地域では学童や若手が激減し、伝統行事などの実施が困難になっている。

また、校区内に農業振興地域が多くことから、宅地や企業用地への転用が難しく、人口増加や企業誘致を阻む要因になっている。

[課題]

- ・高齢化の進展で、災害弱者や交通弱者等が増加している。
- ・集中豪雨や台風・地震等の自然災害に対し、避難訓練や対応体制整備を急ぐ。
- ・自治会員同士のコミュニケーションの低下と、行事等の減少が見られる。
- ・新規住宅用地の不足対策や、空家の増加とその活用検討が急がれる。

② 青少年育成部会

地域と三船小学校との交流は図れているが、良好な関係を継続していくため、将来の地域づくりの担い手となる保護者との交流を活発にする必要がある。

[課題]

- ・子ども数の減少や、住民意識の多様化等により伝統行事の継承者が不足している。
- ・主要道路を中心に交通量が増加し、安心して通学できる通学路の整備が必要である。
- ・不足感がある子ども会やPTAとの交流・連携を強化すべきである。

③ 福祉部会

高齢化が進み、一人暮らしや高齢者だけの世帯が増加し、買い物やゴミだし等日常生活にも様々な困難が生じてきている。

サロン等の取り組みでは未開催自治会もあり、全体的に男性の参加が少ない状況がある。

[課題]

- ・高齢者の日常生活の困難さが増し、支援の手を伸ばす必要が出てきている。
- ・サロンや地域行事等へ参加したくてもできない人がいる。
- ・自治会毎に福祉アドバイザーの活動や待遇に差が出ている。

④ 体育振興部会

ゲートボール・グランドゴルフ・9人制ソフトバレー・ペタンク大会を実施している。また、山田川では市商工会のカヌー教室の支援を行っている。

現状では、事務局や各自治会のスポーツ委員の努力もあり、順調に運営されている。

[課題]

- ・高齢化が進み選手集めに苦労している。参加者や年齢層に偏りがある。
- ・日常的に活用できる広場の確保と整備（給食センター別棟の隣接市有地）が必要。
- ・スポーツに精通した良き指導者のもと、幅広く振興を図る体制が必要である。

Ⅲ 【三船校区がめざす将来像】

《1.三船校区が目指す将来像》

三船校区の将来像を以下に示します。この将来像は子供達から高齢者まで、地域住民の皆さんが住んで良かったと言えるような、魅力あふれる地域に育ててほしいとの思いから、スローガンとして掲げました。

将 来 像

魅力あふれる 元気な住み良い三船校区

～思いやりのある共生・協働の地域づくり～

《2.分野別の基本方針》

将来像を達成するために、以下に示す4つの部会毎に「目指す姿と基本方針」を掲げ実現に向けて行動します。

専 門 部	項 目	内 容
総 務 部	目指す姿	明るく、住みやすい地域づくり
	基本方針	自治会間の交流イベントを実施し、情報共有・連携強化により、各自治会の活性化をはかります。校区に愛郷を深めてもらうために、伝統芸能の実施や、後世への引継ぎ、指導はもちろんのこと、新たな地域資源の掘り起こしも進めます。
青少年育成部	目指す姿	子供達と地域で育む郷土愛
	基本方針	学校と地域の結びつきを強め、子供達一人ひとりが三船校区の一員である自覚に目覚め、大人になって校区を離れても、ふるさとを誇りに感じられるよう、伝統行事への参加や日頃の挨拶運動、見守り活動などを継続していきます。
地域福祉部	目指す姿	高齢者にやさしい地域の支援
	基本方針	高齢化が進み、高齢者の一人暮らし、高齢者のみ世帯が増加している中で、高齢者の不安や悩みに対し、行政に頼るばかりでなく、地域での取り組みが必要不可欠になっています。 高齢者の方々が健康で安心して暮らし続けられる、高齢者に優しい地域づくりに取り組んでいきます。
体育振興部	目指す姿	元気いっぱい、皆で楽しむスポーツイベント
	基本方針	子供達・保護者・お年寄りの3世代が一同に会し、スポーツ大会を通じて、親子間の意思疎通を深めてもらうことや、日頃は疎遠になりつつある地域間の交流の場として、絆や連帯感等を醸成できるようなイベント運営を目指します。

Ⅳ【主な取り組みと役割分担】

将来像	専門部	目指す姿	取組む分野
て喜ばせ らせる 三船校区 みんな笑顔 快適に 安心して	総務部	明るく、住みやすい地域づくり	安心安全な住環境 地域振興の取り組み
	青少年育成部	子供達と地域で育む郷土愛	子ども会活動 地域と学校の連携
	地域福祉部	高齢者にやさしい地域の支援	高齢者支援 健康づくり
	体育振興部	元気いっぱい、皆で楽しむスポーツイベント	イベント体制強化 地域の絆や連帯感を養う

《専門部毎の取り組み》

専門部名		総務部					
目指す姿		明るく、住みやすい校区					
(現在取り組んでいること)							
<ul style="list-style-type: none"> 自治会長や校区代表者による地域課題への対応検討と情報交換 コミュニティ活動の全体的な活性化に向けた研修会実施 							
(今後取り組むこと)							
<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ活動の定着化と新規活性化策の模索 指定管理者制度での事業収益確保と、収益での振興策検討 							
項目	役割分担			実施時期			
	校区	協働	行政	短期	中期	長期	
安心安全な住環境	人口増に向けた定住化策・空家対策の支援	○		●●●●●●●●	—————→		
	行政と一体化した空家対策の推進		○	————→			
	防災対策の強化による安心安全の強化		○	————→			
地域振興の取組	自治会加入活動の推進	○		————→			
	公園や名所の整備と校区外への広報案内			○	————→		
	各自治会行事など情報共有化及び相互支援	○		●●●●●●●●	————→		
	指定管理者制度への取組みと収益事業拡大	○		●●●●●●●●	————→		

専 門 部 名	青少年育成部						
目 指 す 姿	子供達と地域で育む郷土愛						
(現在取り組んでいること)							
<ul style="list-style-type: none"> 三船小学校の稲作体験や総合学習の支援、学校施設の修理・補修の支援活動。 あいらっこ見守隊活動やスクールゾーン委員会および青少年育成協議会への参加。 							
(今後取り組むこと)							
<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域の更なる連携強化に向け、子ども会やPTAとの情報交換の仕組みづくり 通学路の整備や危険箇所の安全対策 							
項 目		役 割 分 担			実 施 時 期		
		校 区	協 働	行 政	短 期	中 期	長 期
子 ども 会 活 動	伝統行事伝承のための勉強会実施	○		→		
	史跡ウォークラリー実施と拡大	○			→		
	あいらっこ見守り隊活動の充実	○			→		
地 域 と 学 校 の 連 携	三船小との交流イベントの実施	○			→		
	通学路などの危険箇所抽出と改善対応	○			→		
	地域行事並びに学校行事への双方の支援	○			→		

専 門 部 名	地域福祉部						
目 指 す 姿	高齢者にやさしい三船						
(現在取り組んでいること)							
<ul style="list-style-type: none"> 民生員と福祉アドバイザーの連携による高齢者福祉活動 視察研修会の実施による活動知識の醸成や意識改革 							
(今後取り組むこと)							
<ul style="list-style-type: none"> 校区合同サロンの定着化と実施内容の充実 高齢者支援体制の充実 							
項 目		役 割 分 担			実 施 時 期		
		校 区	協 働	行 政	短 期	中 期	長 期
高 齢 者 支 援	高齢者見守り体制の確立	○		→		
	高齢者の日常生活支援	○			→		
	徘徊模擬訓練の実施		○		→		

健康づくり・その他	いきいきサロンの全地区での立ち上げ	○			→		
	異世代間交流イベントの開催	○			→		
	ウォーキングコースの設定・整備		○		→		
	福祉アドバイザーの活動及び待遇の見直し	○			→		

専 門 部 名	体育振興部						
目 指 す 姿	元気いっぱい、皆で楽しむスポーツイベント						
(現在取り組んでいること)							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 継承イベント開催 ・ 始良市スポーツ大会に向けた予選会などの開催、ニュースポーツ等の普及啓発 							
(今後取り組むこと)							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たちや青壮年層のイベント参加率の向上 							
項 目		役 割 分 担			実 施 時 期		
		校 区	協 働	行 政	短 期	中 期	長 期
イ ベ ン ト 体 制 強 化	スポーツイベントの定着化・定常化	○			→		
	スポーツ振興リーダーの役員登用	○			→		
	スポーツ備品の充実	○			→		
地 域 の 絆 や 連 帯 感 を 養 う	高齢者向けスポーツ行事の充実	○			→		
	広報活動の強化による各年齢層の参加拡大	○			→		
	始良市大会等の校区外大会への積極的参加		○		→		

※破線は検討、準備期間。実線は実施期間

役割分担や実施時期

役 割 分 担		実 施 時 期	
地 域	校区内で取り組むこと	短 期	1～2年で取組む
協 働	校区と行政が共同で取り組むこと	中 期	3～5年で取組む
行 政	行政が取り組むこと	長 期	6～10年で取組む

V 【計画の推進に向けて】

4つの部会が現在までの活動を振り返り、住民アンケートで寄せられた意見や要望等を盛り込んで、校区の振興に繋がる活動計画を策定しました。

掲げた目標を達成するには、校区住民の理解と協力が不可欠ですので、広報活動や各自治会との連携を図りながら、実施活動を展開してまいります。

また、住民アンケートでの満足度不足や諸課題への対策は、行政と地域が協働し、特に定住化策やインフラ整備・環境整備などは、今後の行政計画にも要望してまいります。

VI 【資料編】

1. 計画策定の経過

期 日	項 目	内 容	会 場
12月5日	コミュニティ協議会での準備会検討会	○まちづくりプラン事前打合せ ○策定委員選定	三叉コミュニティセンター
1月19日	第1回策定委員会	○アンケート調査票の回収	三叉コミュニティセンター
1月25日	第2回策定委員会	○アンケート調査表の分析、集約	三叉コミュニティセンター
2月15日	第3回策定委員会	○目標作成	三叉コミュニティセンター
3月8日	第4回策定委員会	○事業の検討 ○計画書の策定、周知	三叉コミュニティセンター

2. 三船校区まちづくりプラン策定委員会委員

No	役 職	氏 名	策定委員会での役職
1	校区コミュニティ協議会会長、増田自治会長	岸園 浩一	プラン策定総括
2	校区コミュニティ協議会副会長、黒葛野自治会長	上野 廣夫	
3	校区コミュニティ協議会事務局長、寺師自治会長	仮屋 幹雄	
4	総務部長	福山 昭彦	委員長
5	体育部長、中津野自治会長	柳迫 勝美	
6	青少年育成部長、船津自治会長	米重 公德	
7	地域福祉部長、民生委員	富田 雅昭	
8	地域福祉副部長、民生委員	森重 純治	
9	三船団地自治会長	石塚 大喜	
10	永瀬自治会長	小屋敷 健二	
11	春花自治会長	有江 喜久雄	
12	住吉自治会長	時任 義昭	
13	校区コミュニティ協議会	恒見 健一	事務局

